第２号様式

会　議　議　事　録

１　会議名	平成２５年度長岡市市民協働推進審議会
２　開催日時	平成２６年２月２０日（木曜日） 午後３時３０分から午後５時まで
３　開催場所	シティホールプラザアオーレ長岡　東棟３階 市民交流ホールＤ
４　出席者名	（委員） 恩田委員　上村委員　河村委員　佐竹委員　澤田委員 田中委員　樋口委員　山村委員　渡辺委員　綿貫委員 （事務局）市民協働推進室 山崎室長　柳島特命主幹　小村特命主幹　江田総括主査 桜井総括主査
５　欠席者名	な　し
６　議題	(1)　長岡市の市民協働施策について (2)　市民活動推進事業補助金について (3)　市民交流イベントについて
７　審議結果の概要	議題(1)から(3)について　事務局より平成25年度の実績、平成26年度の計画の報告があり、委員による意見交換が行われた。
８　審議の内容	
	１　開会 ・市民協働推進室長よりあいさつ 　アオーレ長岡がオープンして２年経ち、市民活動をしている人の顔、悩み、ニーズが見えてきた。また、大きな課題も見えてきた。 　この審議会は、長岡市の政策の大きな柱である市民協働に関する取り組みについてご意見いただきながら、少しでもよくしていこうというもの。市民協働という狭い範囲だけでなく、長岡市全体の政策についても忌たんのないご意見をいただきたい。

	２　議題
事務局	ここからの議事については、樋口会長に進行をお願いします。
会長	まず、事務局から議題について説明いただき、その後意見交換を行います。
事務局	（１）長岡市の市民協働施策について （２）市民活動推進事業補助金について （３）市民交流イベントについて ・事務局より一括説明 ・意見交換（以下、発言の要旨）
委員	アオーレで市民と関わりのある事業を開催することにより、オープン当初冷めた目で見ていた人たちがどんどん中に入ってきた。一歩前進したと思う。
委員	雰囲気としては成果が上がってきているが、大事なのは反省。 　どこを目指しているのかゴール設定をすべき。資料７の事例でファシリテーター派遣が載っているが、行かなくてもよくなることが理想。市民のなかにファシリテーションできる人が増えて、どこの町よりも話し合いがおもしろく、スムーズにいくようにしていくことが理想。 　次に、資料１に「市民の自由な発想と自発的な活動への徹底した支援」とあるが、「徹底した」という言葉の意味がわからない。支援をしなくても自立的に活動できることが理想。同じく資料１に「きめ細やかな支援」とあるが、補助金を出すのにきめ細やかなことが必要か。支援は、支援をしなくてもよくなるために行うものということを踏まえて言葉を使ってほしい。 　次に、同じく資料１に「市民協働センターによる下支え」とある。繰り返すが、下支えはしなくてよくなることが理想。自分の足でちゃんと立てるようにどんな下支えをするかが重要である。 　同じく資料３検討課題の（３）「経常的な運営経費への補助」について、市民が税金で支えるのではなく、企業が応援するという形もある。 　次に資料５「地域との交流促進事業補助金」について。この名称だと、旧長岡地域と合併地域と読み取れる。例えば「地域間交流促進事業」としてはどうか。
委員	これまでハイブ長岡でやっていたような大きな催しがアオーレで開

	催されることにより、アオーレに行くきっかけができたという話を聞く。逆に、行きづらくなったとか人が集まりすぎて入れなかったとか、使いたいのに予約が取れないとかという話も聞く。予約の取り方にも検討が必要だ。 　補助金を申請した団体のなかで、元気のあるところにはどんどんやってもらい、気持ちはあるが体力のないところにはこちらから投げかけをしてもいいのではないか。
委員	市民活動助成について、おもしろいイベントだからお金を出すというのではなく、活動の幅を広げたり、組織の自立的な活動の支援のためのサポートとしてこの補助事業を展開していく必要がある。 　市民協働センターの役割は整ってきたと思うので、センターを補助金の審査や手続きのなかにきちんと位置付けしてはどうか。市民協働センターはもっと支えたり、評価をしたり、ケアをしていくといい。 　団体同士の偶発的なコラボはずいぶんあるように思うが、お金を出す側の知らないところで、団体同士が勝手につながるような仕組み、仕掛けを復活させてはどうか。
委員	アオーレの賑わいを各支所に情報として伝えていくことが大切だと思うが、そのネットワークができていない。情報の提供が非常に遅れていると感じる。 　「地域との交流促進事業補助金」について。前からこういうものがほしいと思っていた。やはりお金がないと何もできない。現在の補助制度は人件費や会員同士の飲食代はダメといったような規制がかかるものが多い。もっと長岡市の実情にあった「長岡的補助金」を全国に先駆けて作ってほしい。
委員	補助金の申請状況を見ると、中之島地域はゼロ。申請がないもしくは支援が必要ないのであればいいが、支所の職員が全く補助金の話を知らなかった。ぜひ中之島支所に今以上の情報提供をお願いしたい。 　次に資料４の「市民活動推進事業補助金一覧」を見ると、アオーレを利用する団体が全体の５１％、金額ベースでも６０％と半数程度。支所全体に浸透していないのも、アオーレを利用する割合が低い一因ではないか。 　次に協働センターの相談件数と相談事例について。相談を聞いたあと、電話でもいいので、簡単な経過報告を聞いてほしい。 　最後に、市民協働センターについて。知っている人だけのお仲間セ

	ンターにならないよう、芽を出そうとしている団体、芽が出てきている団体の掘り起こしをしていただきたい。
委員	全国の商工会議所の幹部職員が長岡へ視察に来て、中心市街地活性化をはじめ運営の仕方などが大変参考になったと聞いている。個人的には市民協働を推進する仕組みは充足していると思う。ただ、この仕組みを何十年と続けていくとした場合に、小さなものから大きなものまで基本的にすべて採用して助成金を出していく現在の仕組みは、費用対効果としてどうなのか。長い年月をかけて絞っていくことも視野にいれてはどうか。
委員	長岡市の数多くの団体のなかで、うまくいっているような事業や団体を商工会議所に紹介して、各企業にうまく働きかけることはできないか。 企業と団体をつなげる仕組みを作ることが商工会議所や市民協働センターの役割なのではないか。税金に頼るのではなく、民間で資金をまわせるような仕組みを作っていくべき。
委員	企業サイドには、市民協働の活動を行う経営者層はまだ多くはないのではないか。
委員	市民協働というより企業からの地域貢献と考える。その受け皿となる団体がいくつもあるので、それに対して企業が資金を出すとか会員になるとか考えてほしい。
委員	企業サイドにとって、ＮＰＯはまだ身近な存在ではないと感じる。個人的に関わっている人はたくさんいるが、企業の経営から見た場合にまだ浸透されていないのではないか。
委員	山古志フェアをアオーレで開催したが、地域にとって非常によかった。ハレの場で多くの人の見てもらい自信が持てた。それに若い人たちが関わるうことで世代間交流が生まれた。よかっただけで終わるのではなく、今後どうやっていくか自分たちで考える芽も出てきている。 資料３に「民間補助金の情報提供」とある。長岡市は工業技術が盛んだということを考えると、全国的に展開している大きな企業も地域貢献に感心を持っているのではないか。だが、小さいＮＰＯだと情報を得るツテがない。協働センターがパイプ役として企業の情報提供し

	てくれるのは非常に助かる。そうして自活できるＮＰＯを作っていくことで大きな市民活動の動きになっていくのではないか。
委員	長岡市が１０数年にわたって市民協働に取り組んできたことが、見えてきているので、きちんと評価することが大切。 資料１の「徹底した支援」という言葉に違和感を感じた。ここに書くことは「市民の自由な発想と自発的な活動を大切にする。だから市民が生き生きと活動できるための環境整備」ではないか。いろいろ支援が必要な場面もあるが、環境整備をすることが第一で、そこに納めてもらった税金を活用する。支援することによって新しい地域の価値が生まれるような場面、そして具体的なサポートが必要な状況で初めて支援する。最初に徹底した支援ではない。 いろいろな補助制度があることで、新しい発想とか具体的な行動が生まれてくる。大事なきっかけだと思う。 次の「のもーれ」でクラウドファンディングをテーマにする。ネットを通じてより広く市民や企業、全国の方々から活動の資金を支援してもらうという仕組み。これから必要とされる手段だし、より広く多くの方から長岡のファンになってもらえると思う。
会長	ほかにご意見はありますか。
委員	どこへ行っても「長岡はいいね、すごいね」と言われる。だからといって喜んでいる場合じゃなく、圧倒的に先行してほしい。満足しないでほしい。 去年の取り組みでアオーレは身近になったが、次は何をねらうのか。 それから「支援」と言う時は「自立」と前につけて語ってほしい。つまり、支援がいらなくなるというニュアンスで支援してほしい。 先ほどクラウドファンディングの話が出た。ちょっとした発明でも世界中から支援が集まってくる。だが、それほど注目されるＮＰＯになることが大変。誰かのために何かをするという思いを持って活動している人に対して、税金控除されるなら支援するという企業のパトロンみたいなのがつくのが理想形。
委員	ファンディングの話だが、そんなにりっぱなＮＰＯでなくてもお金は集まる。お金が集まるような共感を呼ぶようなものが必要。
委員	いいコンセプトと発信者を備えることが大切。ＮＰＯも競争だから。

事務局	「徹底的な支援」について、団体には、自立してやっていただくことが大原則。毎年新しく何かをしようという団体が出てきていて、協働センターがしっかり支えていくという気持ちの表れである。 補助制度について、長岡市はかなり規制が少ないと思う。またあえて地域に限定した補助制度を設けたのは、地域で５万でも１０万でもあれば「何かできる」という人がいた時に、ハードルを低くしてさっと動けるように。そういった意味で一体感を出すために「地域」としたが、委員のみなさんの意見を聞いて修練していきたい。 寄附については、行政がいっきに制度をつくるほうがいいのか、お金が団体に直接回るような仕組みを考えるほうがいいのかまだはっきりしていない状況だ。
委員	アオーレ長岡を運営するＣＩＮＡと協働ネットが、アオーレオープンと同時にできたので、中心市街地活性化と市民協働がごっちゃになっている。合併の要素も加わってさらにごっちゃになっている。きちんとした道しるべが必要。 本来ならば団体が自立し、自由に活動できるように支援しなければならないところをかなり過剰に支援していて、それが協働センターの実績づくり、手柄づくりみたいな印象を受ける。我々はどこまで支援するのか、市民もどこまで支援を求めるのか。はっきりさせるべきである。 民間同士が一緒に、より多くの方に知ってもらい、参加してもらうような事業は少ない。もう少し大きなところで、わかりやすい形で市民協働に取り組むことが必要なのではないか。長岡まつりのような市民協働という考えを広められる場がもっと必要である。
会長	これで議事を終了いたします。議事の進行にご協力いただきありがとうございました。 （　閉　　会　）
（出席委員の署名欄）　省略	

９　会議資料

・資料１　長岡市の市民協働施策について
・資料２　市民協働センター（西棟３階）の業務体制
・資料３　平成２５年度市民活動推進事業補助金の申請状況について
・資料４　平成２５年度長岡市市民活動推進事業補助金申請団体一覧
・資料５　地域との交流事業補助金等の概要
・資料６　市民協働センター平成２５年度相談状況
・資料７　市民協働センター平成２５年度相談事例
・資料８　市民交流イベントについて
・資料９　平成２６年度主要イベント